

●CNCP はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です●

## シリーズ 分かり易い土木

## 第2回東京湾の埋め立て

第2回は東京湾の埋め立てです。徳川家康が江戸に幕府を開くと大規模な埋め立てが始まりました。もともと東京湾は浅い海でしたので、埋め立てに適していました。

江戸城の堀を作って出た土で埋め立てたのが東京駅の近くの八重洲と言われています。東京湾が東京駅のすぐ近くまで入っていました。勝鬨橋で有名な月島は航路を浚渫した土砂で作られたと言われています。江戸に入ってくる船の航路を確保し、更に住宅地を作ったという事例です。

佃島など逸話も多い島が作られています。徳川家康が本能寺の変の後、岡崎城に逃げ帰るのを助けた大阪佃村の漁民を江戸に招いて、特別の漁業権を与えたと伝えられています。佃島は月島の隣で、図で月島と書いてある付近です。

廃棄物を処理するために埋めたのが永代島と言われています。昭和になってからは「夢の島」に生ごみなどの廃棄物を投入していました。私も小学生の頃に見学に行きました。その跡地は現在「若洲ゴルフ場」になっています。いまだにゴルフ場のフェアウエーからパイプを通してメタンガスが出ています。

江戸時代には焼却処分がない時代ですから大地震や大火の後の震災廃棄物も埋め立てられたようです。

以上

(理事・事務局長 内藤 堅一)



東京湾埋め立ての画像より

## Vol.74 コンテンツ

巻頭言	コロナと共に～駆け足でやってきた未来とまちづくり～	三上 靖彦	2
コラム	既に起こっている未来	山崎 晶	3
身近な土木遺産シリーズ	第5回宮崎県延岡市の「五ヶ瀬川の畳堤(たたみてい)」	木原 万里子	4
部門活動紹介	土木と市民社会をつなぐ事業研究会報告	事業化推進部門	6
事務局通信			7